

令和6年度 岐阜県立木工芸術スクール活性化検討会 議事要旨

1 開催日時及び場所

令和6年10月30日(水)13時30分～15時
木工芸術スクール(視聴覚室)

2 出席者

野尻修二会長、井端 清秀委員、岩島 義則委員、浦西 正幸委員、岡田 明子委員、澤 安紀子委員、番場 智徳委員、二村 伸一委員、牛丸 勝委員

3 事務局

【商工労働部】

労働雇用課長、課長補佐兼職業能力開発係長、同主査

【木工芸術スクール】

校長、管理調整係長、訓練指導員

4 会議の概要

・あいさつ ・資料説明 ・意見交換

5 主な意見

【入校生の確保について】

○全国的にパイが少なくなっている。全国から集めなければならない。ものづくりを担うポジションをしっかりと認識する必要がある。

対象となる高校生もある程度全国から集めるという意識をはっきりと持つ必要がある。

○木工芸術スクールには県外からの入校者が多く、卒業後も飛騨地域に就職するケースが増えている。入口よりも出口の部分で、価値のある学校になっており、飛騨地区にとって効果が高い。

○高山市からの入校者数が4名程度であることについて、妥当な数と考える一方、地元からの入校者増加にもう少し努力してはどうかという意見もあった。中学生や高校生に対するキャリア教育を充実させ、地元企業の魅力を伝える取り組みを進めてみてはどうか。

【修了生の就職支援について】

- 就職先の選択肢として訓練生がメーカーよりも工房で働きたいと希望する傾向があり、訓練生の知識とか思い込みが視野の狭さが選択肢を狭めている。その点を丁寧に説明しマッチングする仕組みが必要ではないか。
- 木工芸術スクールと地元企業との連携を強化し、卒業生の就職先の選択肢を広げる取り組みが提案された。また、企業側がも訓練生に対して十分にアピールできていない点があるのではないか。
- 生徒が企業や職業について十分に理解していないため、視野を広げる取り組みが必要。企業説明会や工場見学の更なる充実が求められた。また、企業の社長が直接訓練生と話すことで、企業の魅力を伝えることが重要ではないか。
- 支援制度の改善として、高山市支援制度について年齢制限や給付期間の延長など、支援制度の改善が求められた。また家賃補助の期間延長や奨学金返済支援の拡充も要望として提案された。

【木工芸術スクールについて】

- 飛騨の家具のプロモーションとして、飛騨牛や温泉のポスターに加え、飛騨の家具のポスターを作成し、観光と産業の両面で地域の魅力を発信してはという提案があった。